

3. FE試験の学習対策

午前試験と午後試験，それぞれ特徴がありますので，見合った対策を立てましょう。

午前試験対策

・基本はサイクル学習

各知識を身に着けていくには，

インプット（知識習得）→ アウトプット（演習）→ 再インプット → …

というサイクルを回していくのが効果的です。

テキストや講義で，基礎知識を頭に入れる



問題を解いてみて，ポイントや弱点の確認を行う



間違えたところを再学習することで，知識が「上積み」される

という流れで学習を進めることで，効率よく，スキルが伸びていくでしょう。

・分野（テーマ）ごとに区切って進める

取り扱う範囲は広いので，全てを一度に学習しようとするとう頭も疲労してしまいます。

序盤は「アルゴリズム」「データベース」など，分野ごとに学習サイクルを実行して，確認してから次の分野に進むということを繰り返すとよいでしょう。

・インプットはポイントを絞って

前述のように FE 試験の扱う知識範囲は広いので，すべての範囲について専門的な知識を深く身に着けようとするとう，時間がいくらあっても足りません。試験対策用の教材を活用して，まず「出やすい部分」からしっかりと抑えるようにしましょう。

・アウトプットは過去問＋ α

午前試験は過去問題の流用改変も多いため，過去問題の演習は非常に重要です。ただ，過去問題の内容だけでアウトプットが終わってしまうと，少し視点を変えた問題や，新しめの題材の問題に対応できなくなるので，問題集や模擬試験など，過去問題以外の類似問題にたくさん触れておくことも大事です。バランスをとりながら進めていきましょう。

午後試験対策

・基本は問題演習の積み重ね

午後試験では、長文で示された内容を試験時間内にしっかりと読み取る力が必要です。この力を身に着けるためにまず必要なのは、とにかく「いろいろな問題を解いてみる」ことです。

午前試験と違って全く同じ問題は出てきませんが、分野ごとに「問われやすい論点」は確実に存在します。多くの問題演習を繰り返すことでそれらのパターンが見えてくるようになり、「速く確実に解く練習」を積むことができます。学習時期によって次のようなステップをふむとよいでしょう。

ステップ1：時間を気にせず、確実に解答を出す

ステップ2：時間を計った演習に切り替える

・選択分野は早めに絞ろう

本試験当日までの限られた時間の中で午後試験対策をするとなると、やらなければならない学習・演習がたくさんあります。したがって、選択問題の全ての分野を対策するのは、効率がよくありません。早めに分野を絞って、対策しましょう。選択問題の間2～7の内訳は次のようになっています。

問番号	テーマ		配点	解答数・出題数		
2～4	ハードウェア	4分野から 3問を出題	各12点	4問選択/6問出題 (12×4=48点)		
	ソフトウェア					
	データベース					
	ネットワーク					
5	ソフトウェア設計					
6	マネジメント					
7	ストラテジ					

問2～4に該当する分野のうち、一つは出題されず「お休み」となります。したがって、4分野ぎりぎりに限定するのではなく、1分野を予備としておさえておくべきです。以下に、傾向をふまえたうえでの選択のポイントを挙げます。

① 計算・論理が得意ならば、テクノロジー系中心

(例) ハードウェア、ソフトウェア、データベース、ソフトウェア設計
予備：ネットワーク

② 状況判断や長文読解に自信があるならば、マネジメント／ストラテジ系中心

(例) マネジメント、ストラテジ、データベース、ソフトウェア設計
予備：ソフトウェア

③ データベースは問題構成が比較的安定しており、対策の効果が出やすい

④ ネットワークはテーマが予測しづらく、深く学習している人向けの色が強い

・言語の選択

プログラム初学者にとっては、問 9～13 のプログラム言語の問題でどれを選択するかは悩みの種でしょう。以下に、各言語の概要を簡単に示します。

名 称	特 徴	学習時間	過去の難易度
C 言語	システム記述やアプリケーションの作成に用いられる開発者向きの汎用言語です。	やや多め	普通～やや難
COBOL	事務処理向きの言語 命令を英文形式で記述するため、理解しやすい反面、現在ではやや古い言語です。	普通	普通
Java	現在広く利用されているオブジェクト指向言語として高い人気がある言語です。多機能である反面、学習内容も多い言語です。	多め	普通～やや難
アセンブラ (CASL II)	試験専用のアセンブラ言語です。 命令数が少なく、論理演算などが得意な人であれば理解し易いですが、実務向きではありません。	やや少なめ	やや易～普通
表計算	試験唯一のユーザ向き言語です。 身近で理解し易く、実務にも活かせます。初学者向き。	少なめ	やや易～普通

まったくのプログラミング初心者であり、学習にあまり多くの時間が割けないのであれば、まずは表計算やアセンブラ (CASL II)、続いて COBOL がおすすめです。これらは、覚えるべき文法が少なく、比較的早期に演習に入れます。早く演習に入れば、頻出の論点を把握したり、

それに対して C 言語や Java は文法知識が多く必要で、その学習時間を確保する必要があります。ゼロから学習を進め、短期間で F E 合格という目標を最優先に考えた場合は、強くお勧めはできないでしょう。

ただしもちろん、ご自身の業務で C 言語や Java を使用する環境が近く、今後のキャリアとしてそれらのプログラミングスキルを高めていきたいのであれば、その言語を選択するのもよいでしょう。

ご自身のキャリアプランと、合格という目標とをうまくすり合わせて、ベストな選択を行ってください。